

週日の説教

金 大烈 神父 2011年12月1日(木)

《実践の大切さ ～父の御心を行う者だけが天の国に入る～》

今日の福音(マタイ 7:21、24 - 27)を読んで思い出した中国の物語があります。それを紹介させていただきます。

昔、中国にも日本の戦国時代のような時代がありました。多くの国に分裂し、数え切れないくらいたくさんの国があった時代です。その中に、セイ(齊)という国がありました。戦争に勝ち、繁栄した国です。そしてセイの隣にはカク(郭)という国がありました。カクは滅びた国です。

ある時、セイの王族の一人が旅に出て、滅びたカクの都の跡が見える道を通ることになります。その王族は、「カクの民とは、どのような民であったのか。何か伝わっている話があるか。」と僕たちに聞きました。するとすぐに「カクの民は、善を愛し、悪を嫌う民でした。」という答えが返って来ました。それを聞いた王族は「善を愛し、悪を嫌う民ならば、このようになるはずはないだろう。」と言います。それに対して、一人の僕が「その通りです。しかし、カクの民は善を愛しましたが、実践をしませんでした。悪を嫌いましたが、いつも悪に負けていました。悪と戦おうとしなかったのです。」という話をしました。

この物語が思い浮かんだのは、今日の福音と同じ内容ではないかと思ったからです。私たちは、どのような生き方が正しくて、どのような態度がふさわしいのかよく分かっています。分かっている、それが善いことであると思いつつも実践できないのです。そして、本当に悪いことであっても戦う気力さえ失っています。

そういう意味で、イエス様は、御父のみ旨にかなうことを『実践する』のかどうか基準だとおっしゃっています。私たちは、自分がどのような歩み方をしてきたのか、その基準で振り返ってみるべきでしょう。

ありがとうございました。